

## 平成 24 年度現場研修会報告

### 地形・地質が物語る過去の地震

#### —南房総を訪ねて—

#### 事業企画委員会

### 1. まえがき

平成 24 年 6 月 8 日と 9 日との 2 日間、独立行政法人海洋研究開発機構の山本由弦博士を講師にむかえ、房総半島南端部の館山市、南房総市ならびに鴨川市において「地形・地質が物語る過去の地震—南房総を訪ねて」と題した研修会と現場研修会を開催しました。参加者は 28 名。2 日目はあいにくの悪天候であったが当初予定していたほとんどの研修内容を講師と参加者方々のご協力により無事に終えることができました。

### 2. 現地研修状況

#### 6 月 8 日 (1 日目)

午前中の研修会では、最新の研究データを基にした沈み込み帯と地震との関連、三浦・房総半島のテクトニックセッティング、南房総地域でみられる地震に伴う地形地質現象、そして三浦・房総半島の地質概要など、高度で多岐・多量の内容であったが、理解を容易にする講師作成のスライドや資料およびそれらを適切にフォローする説明をおこなっていただいたおかげで、研修会終了後には多くの参加者から質問や議論が熱心に交わされ、研修内容と研究者の熱意が参加者へ十分理解されたものと感じました。

午後の現場研修会は翌日の悪天候予報を考慮し、研修場所の予定順序を若干組み替えて実施しました。巴川の津波堆積物、西川名の三浦層群西岬層でみられる地震や付加作用で形成された変形構造、そして付加体を覆う堆積物と付加体との見事な不整合面の露頭など訪ね、これまで全く確認することができなかった地質・地形現象を現場でも説明され、その場でリ

アルタイムに体験できた貴重な経験となりました。西川名では露頭中のベインストラクチャーを目前にして、講師が作成・持参いただいた「ベインストラクチャー」体験キットはかなりの好評でした。最後の不整合露頭は斜面上方まで結構なペースで登ることとなり、研修終了後の深夜に及ぶ懇談会を含めて地質学には知力のみならず、肉体的な素養(体力?)が不可欠なことを再認識した初日でした。



写真-1 三浦層群の露頭(西川名)において山本氏からの説明を聞く参加者



写真-2 付加体を覆う堆積物と付加体との不整合露頭の前での集合写真

#### 6 月 9 日 (2 日目)

2 日目は前日に脳と肉体を酷使したためか、それとも懇談会の影響か、小生には(研修所に宿泊した参加者の多くもそうだったかもしれない)精神・肉体的ダメージを抱えた中で、予想どおり?朝からの結構な風雨もそれに追い打ちをかける高負荷のスタートであった。見物

(けんぶつ)付近の隆起海食台, 林道工事中に発見され講師らの働きかけにより保存された千倉層群畑層(海底斜面堆積物)の液状化—海底地すべり堆積物の大露頭, 火炎状構造, 保田層群(付加体)のファッコイなどのみごとな露頭, 横殴りの雨中ですず濡れになりながら交わされる活発な議論など, 最近ぬるくなっていた小生にとっては心を洗われる思いと今後忘れることはないだろうとの強い印象を受けた 2 日目研修でした.



写真-3 悪天候にもかかわらず、露頭を前に活発な議論を交わす参加者

### 3. あとがき

研修会にて学び, 現地にて体験確認する一連の研修会を実施したのは平成 16 年に三浦半島を巡検した「付加体地質の講習会および現場研修会」以来 2 度目となったが, 前回同様に参加者数が予想を上回る反響となり, 今後も研修会と現地研修会をリンクさせた研修会事業をタイムリーに企画していきたいと考えています.

最後になりましたが, 前回に続き, 今回も研修のコーディネート, 素晴らしい資料の作成および現地研修会の案内に至るまでを快く引き受け, 全面的にご協力をいただいた山本由弦博士に対して, ここに深く感謝の意を表します.

(文責: 上野光)